F-74

寺社参道沿い自営業の店舗における地域住民向け店舗の持続性に関する研究
—中山法華経寺参道と川崎大師表参道を対象として—

A study on the sustainability of stores for local residents in self-employed stores along temple shrines

○渡辺隼[1]，小木曽裕[2]，山﨑晋[2]
Hayato WATANABE, Yutaka KOGISO, Shin YAMAZAKI

Abstract: This paper surveyed self-employed stores according to an approach. And then, I considered a store for local residents. That is this paper of the purpose. As a result, self-employed stores should strive to create value for their own stores and unite with the local community.

１．背景および目的

寺社という大きな観光資源を有している参道において，参道沿いにある店舗は寺社の影響を受けることが多く，地域としての活力が必要であると 2018 年の調査より分かった．

そこで，本研究では地域の特徴をより表している寺社参道沿いの自営業の店舗に焦点をあて，各店舗の現状の店舗運営から地域としての活力をより高められるような地域住民向けの店舗のあり方を考察することを目的とする．

２．研究方法

本研究では，中山法華経寺参道・川崎大師表参道における自営業店舗を対象に対面アンケートを行った．調査方法を Table1 に，対象地概要を Table2 に示す．

３．結果および考察

中山法華経寺参道・川崎大師表参道のアンケート結果の概要を Figure1 に示し，以下の項目ごとに自営業の店舗についての結果と考察を示す．

３－１．中山法華経寺参道

中山法華経寺参道では参道が市川市と船橋市の二つに分かれているという特徴がある．市川市側は法華経寺寄りの参道を指し，店舗は 18 店で 9 店の 50%が閉店して，現在では 9 店舗が営業している．この内の 8 店中 6 店の 75%が将来に不安を抱いているというアンケート結果が得られ，全ての店舗は顧客の地元住民割合が比較的低い店舗であった．このことから，寺社の参拝客が年々減少しているのではないかと考えられ，寺社への参拝者の増加により顧客の増加が見込まれる．一方船橋市側では、店舗は 47 店で 10 店の 21%が閉店して，現在では 37 店舗が営業している．32 店中 17 店の 46%が将来に不安を抱いており，市川市側より少ない結果となった．船橋市側は参道内に二つの駅を有しており人の流入が多く，市川市側より多い結果になったのだと考えられる．

Table1 Outline of the target (This is original table by authors)

調査方法	現地調査
調査日	2019 年 8 月 6 日(火)･8 日(木) 8 月 9 日(金)･10 日(土)
調査対象	川崎大師表参道・中山法華経寺参道
調査内容	川崎大師表参道・中山法華経寺参道の自営業店舗の実態

Table2 Survey Method (This is original table by authors)

	所在地	歴史	参道
法華経寺	千葉県 市川市中山	創建：1260(文応 1)年	中山法華経参道 延長:490m　幅員:8m
川崎大師（平間寺）	神奈川県 川崎市川崎区	創建：1128(大治 3)年	川崎大師表参道 延長:480m　幅員:14m

店舗の具体的な取り組みは，商品にこだわりを持つことや，地域住民に向けた配達，地域密着をあげている店舗が多くみられ，参道全体に地域住民向けの店舗が多いことが分かった．お寺の催事に合わせたキャンペーンなどを行っている店舗もあったが，客層が地域住民中心であることから，寺社自体の集客には繋がっていないのではないかと考察できる．また，地域と連携したポイントカードなどを利用している店舗も少なく(20%)，改善することでより地域住民を顧客として呼び入れることができ，寺町として盛り上げるきっかけにもなり得ると考える．

将来への不安要素としては，後継者不足が最もあげられ(39%)，また人手不足などもあげられていることから地域の若者の参道への関心が薄いと考えられた．全体的に見ると中山法華経寺参道では，営業年数 60 年以上の店舗 18 店舗中 12 店舗(67%)が将来に不安を抱いていると答えていることからも，年数を重ねた老舗でも将来に不安を抱えていることが分かる．

３－２．川崎大師表参道

川崎大師表参道では，店舗は 36 店で 7 店の 19%が閉店して，現在では 29 店舗が営業している．中山法

1：日大理工・学部・まち　2：日大理工・教員・まち

華経寺参道と比較すると，比較的閉まった店舗は少ないといえる．

具体的な取り組みとしては，利用者の多い時間に営業するという工夫が多かった(62%)．こちらの参道の場合ある一定層のお客に絞った運営をする店舗や，そもそも寺社のことを全く意識していないという店舗が多く，地域と連帯というより独自性を持った店舗が目立った．

将来への不安要素としては，中山法華経寺参道とは対照的に後継者不足はあげられず，集客に対する不安が一番大きかった．街や参道についての不安が少ないことからも，多くの店舗が寺社を意識することなく各々の店舗で客層を絞り利益をあげていることが考察できる．川崎大師表参道では将来に不安を抱いている店舗が 8 店舗（33%）と少なく，営業年数 60 年以上の店舗 10 店舗中 3 店舗(30%)のみが将来に不安を抱いていると答えており，老舗でもしっかりとした将来ビジョンを持って経営していることが分かった．

4．まとめ

両参道を比較した結果，寺社との関わりを意識した店舗や，お店を閉じられシャッター店舗になってしまったお店は中山法華経寺参道に多く見られた．反対に川崎大師表参道は寺社に依存するわけではなく各店舗の方針で運営をしている店舗が多かった．

寺町の店舗は寺社との関係だけでなく，まずはお店を安定させることが必要となる．寺社に参拝客が来ず，地域住民との関わりを失ってしまった店舗は経営難となってしまうからだ．その点，川崎大師表参道は各店舗のそれぞれの価値を構築できているといえる．今回の結果から，参道沿いの店舗は自店舗の価値創造に努め，それに加えて寺社とのコミュニケーションを図るなどすることで，より集客を見込めると考える．

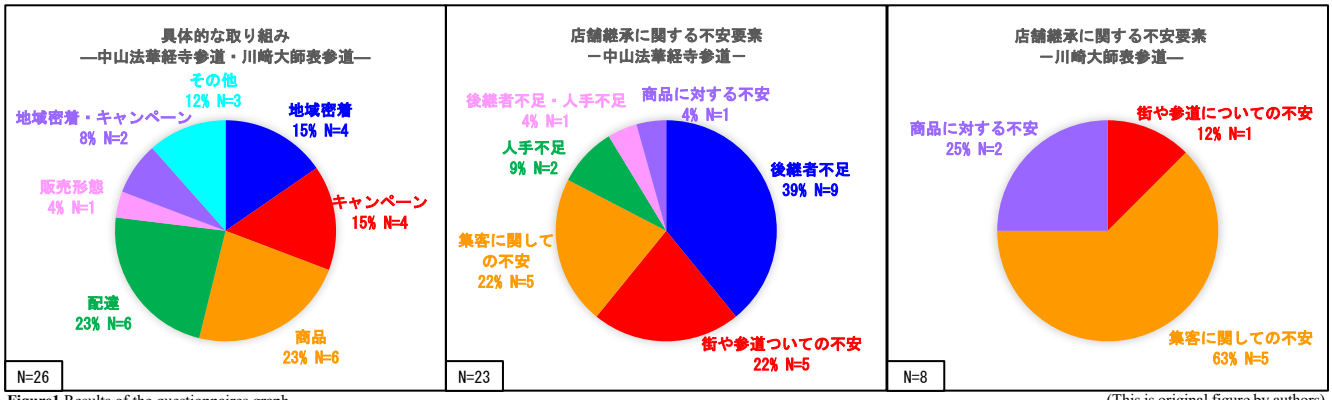

Figure1 Results of the questionnaires graph (This is original figure by authors)

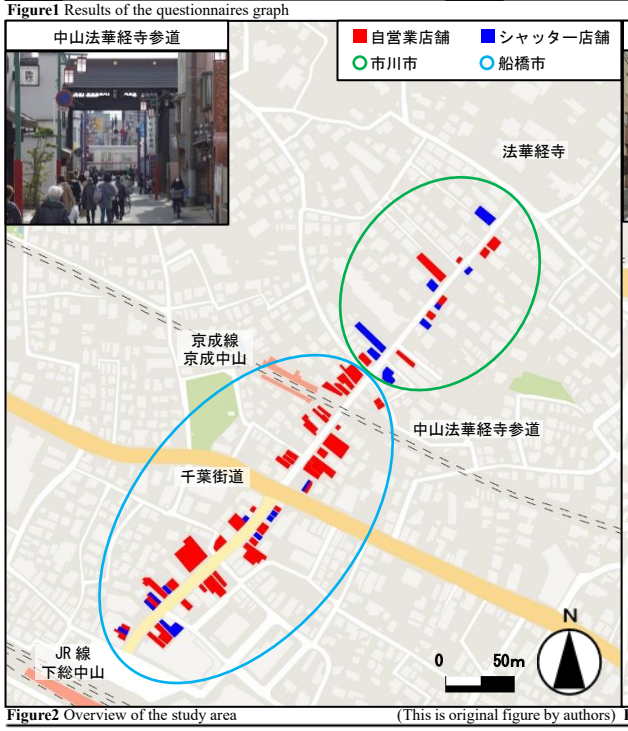

Figure2 Overview of the study area (This is original figure by authors)

Figure3 Overview of the study area (This is original figure by authors)